

# 第一次環境行動計画のまとめ（点検・評価）

## 1 第一次環境行動計画の概要（平成13年1月策定）

### (1) 期 間

平成12年度～16年度

### (2) 目 標

- ① 具体的取組項目として、昼休み時の消灯等 **67項目**を設定
- ② 数値的目標を掲げる取組項目
  - ◆ 電気・ガス・水道使用量、コピー用紙購入量、庁用車燃料使用量→**11年度（基準値）比3%削減**
  - ◆ 廃棄物排出量→**11年度比40%削減**
  - ◆ 温室効果ガス総排出量→**11年度比3%削減**

### (3) 推進体制

『環境管理総括者』⇒区長

『実行部門長』⇒各部長

『環境管理本部長』⇒助役

『環境管理リーダー』⇒課長等各所属長

『本部員』⇒各部長

『推進リーダー』⇒職員

『環境管理責任者』⇒環境防災部長

### (4) 点検・評価

- ① 各所属内において四半期に1回行う。
- ② 各部門内において半期に1回行う。
- ③ 本部において年1回行う。

## 2 環境に配慮した取組について

### (1) 前年度より評価ポイントが下がった（0.1ポイント以上）項目（9項目）

- ① 省エネルギーの推進（13項目中5項目）
  - ・ 昼休みは消灯する。
  - ・ 晴天時等は窓側照明を消灯する。
  - ・ OA機器は節電・待機モードへの切り替えを励行する。
  - ・ 検温等も行いながら、空調機器の設定温度は冷房は28℃、暖房は20℃として運転する。（空調機器の適正温度の設定）
  - ・ 使用後の種火の止栓等、機器の効率的使用を行う。（ガス器具種火の止栓）
- ② 省資源の推進（10項目・該当なし）
- ③ 庁用車の適正利用（6項目中2項目）
  - ・ 新規購入・買い替えにあたっては、適切な台数を念頭に置きながら、七都縣市指定低公害車や低燃費車を選択する。

- ・ 経済運転（暖気運転の抑制、アイドリング・ストップ、急発進・急加速の抑制等）を励行する。  
（アイドリング・ストップの実施）
- ④ ごみ減量・リサイクルの推進（9項目中1項目）
  - ・ 個人購入した新聞・雑誌等は持ち帰る。
- ⑤ グリーン購入の推進（6項目・該当なし）
- ⑥ 施設の建設・管理等での配慮（7項目・該当なし）
- ⑦ 緑化の推進（6項目中1項目）
  - ・ 可能な限り、新設・改修し、潤いづくりに努める。（公園等の整備）
- ⑧ 有害化学物質の排出抑制（6項目・該当なし）
- ⑨ 特定フロン等の排出抑制（2項目・該当なし）
- ⑩ 周知・啓発（2項目・該当なし）

**(2) 前年度より評価ポイントが上がった(0.2ポイント以上)項目（11項目）**

- ① 省エネルギーの推進（13項目中4項目）
  - ・ 国際エネルギースターロゴが貼付された製品など、エネルギー消費効率の高い製品や節水型製品を選択する。
  - ・ 電気は月ごとに使用量を記録し、使用状況の適正な把握を行う。
  - ・ 照明点灯箇所の削減、蛍光灯本数の削減等を実行する。
  - ・ 都市ガスは月ごとに使用量を記録し、使用状況の適正な把握を行う。
- ② 省資源の推進（10項目中2項目）
  - ・ 水道水は月ごとに使用量を記録し、使用状況の適正な把握を行う。
  - ・ 印刷物作成の際は、古紙配合率の表示をする。
- ③ 庁用車の適正利用（6項目・該当なし）
- ④ ごみ減量・リサイクルの推進（9項目・該当なし）
- ⑤ グリーン購入の推進（6項目中1項目）
  - ・ エアゾール製品は非フロン系製品（LPガス等）を選択する。（非フロン製品の採用）
- ⑥ 施設の建設・管理等での配慮（7項目中3項目）
  - ・ 可能な限り、太陽光等自然エネルギーやごみ焼却余熱等未利用エネルギーを活用する。（自然エネルギー等の採用）
  - ・ 空調設備やエレベータ等は、施設の特性を判断し、効率的な設備を導入する。
  - ・ 工事車両は、台数・運行時間等、効率的な運行に努める。
- ⑦ 緑化の推進（6項目・該当なし）
- ⑧ 有害化学物質の排出抑制（6項目中1項目）
  - ・ 農薬等の適切な使用や落ち葉の堆肥化による再利用を行う。（農薬等の適切使用）
- ⑨ 特定フロン等の排出抑制（2項目・該当なし）
- ⑩ 周知・啓発（2項目中・該当なし）

### (3)全体の点検・評価

①全体の取組み・意識は横ばいであるが、一人ひとりが行動する項目でポイントダウン。

各実行部門長の総括意見では、昨年度に引続き職員の意識・実践ともに定着してきていると評価している。16年度の全体の平均点は4.16ポイントで前年度の4.12ポイントと比較し、ほぼ横ばいであった。

しかし、「昼休みの消灯励行」、「窓側照明の消灯」、「OA機器は節電・待機モードへの切り替え」、「アイドリング・ストップの実施」、「個人購入した新聞・雑誌等は持ち帰る」などの職員一人ひとりの環境に配慮した行動の中でも比較的取り組みやすい基本的な項目のポイントが前年度より低くなっている。

今後も一人ひとりの意識の向上と継続が必要である。

②電気・ガスなどの使用量の把握はポイントアップ。

昨年度、「電気」、「ガス」、「水道」などの使用量の把握がポイントダウンしたが、今年度は、ポイントがアップした。各実行最小単位での把握方法の見直しなどが行われた結果であると推察する。

さらに、各実行最小単位で電気・都市ガス等の使用量が把握しやすいように統一した入力様式を作成した。今後、実行最小単位においての活用が望まれる。

## 3 温室効果ガスの排出（電気・ガス・水道等の使用量）について

### (1) 平成16年度の状況

平成16年度の結果と平成15年度の比較及び経年変化は次の表のとおりです。

表1 各使用量などの経年変化

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	目標値
電気使用量 kWh	71,202,060	75,530,360	71,531,623	72,268,955	70,999,352	74,669,793	69,065,998
都市ガス使用量 m <sup>3</sup>	4,369,669	4,715,653	4,347,184	4,564,521	4,162,020	4,308,415	4,238,579
水道水使用量 m <sup>3</sup>	1,940,595	1,842,102	1,821,820	1,754,231	1,650,759	1,805,258	1,882,377
庁用車燃料使用量 ℓ	157,982	510,810	474,593	487,171	518,362	515,177	153,243
温室効果ガス 排出量 t	36,557	39,845	37,389	38,196	36,703	38,275	35,460
コピー用紙購入量 枚	22,431,250	25,312,500	21,506,250	22,201,250	22,586,250	23,145,000	21,758,313
本庁舎廃棄物 排出量 t	198	182	97	83	80	77	119

※15年度の電気、都市ガス、水道水の各使用量及び温室効果ガス排出量について修正。

※使用量・排出量等の数値は今後の見直しにより修正することがある。

表2 平成15年度との比較表

		16年度 (a)	15年度 (b)	対前年度差 (a)-(b)	11年度 (c)	16年度 目標値 (d) (11年度比 3%・廃棄物 のみ40%減)	目標値との 増減 (a)-(d)	目標値に対 する割合 (a)/(d)
電気使用量 (kWh)	全体計	74,669,793	70,999,352	3,670,441	71,202,060	69,065,998	5,603,795	108.1%
	11年度既存施設計	71,559,680	68,114,993	3,444,687	71,202,060	69,065,998	2,493,682	103.6%
	11年度新規施設計	3,110,113	2,884,359	225,754	0	—	—	—
都市ガス使用量 ( $m^3$ )	全体計	4,308,415	4,162,020	146,395	4,369,669	4,238,579	69,836	101.6%
	11年度既存施設計	4,022,841	3,921,421	101,420	4,369,669	4,238,579	△ 215,738	94.9%
	11年度新規施設計	285,574	240,599	44,975	0	—	—	—
水道水使用量 ( $m^3$ )	全体計	1,805,923	1,650,759	155,164	1,940,595	1,882,377	△ 76,454	95.9%
	11年度既存施設計	1,728,715	1,574,133	154,582	1,940,595	1,882,377	△ 15,366	91.8%
	11年度新規施設計	77,209	76,626	583	0	—	—	—
庁用車燃料使用量 (ℓ)	全体計	515,177	518,362	△ 2,750	157,982	153,243	361,934	336.2%
	清掃事務所以外計	155,521	153,570	1,951	157,982	153,243	2,278	101.5%
	清掃事務所計	359,656	364,359	△ 4,703	0	—	—	—
温室効果ガス排出量 (t)	全体計	38,275	36,703	1,572	36,557	35,460	2,815	107.9%
	11年度既存施設計	35,897	34,406	1,491	36,557	35,460	437	101.2%
	11年度新規施設計	2,377	2,296	81	0	—	—	—
本庁舎コピー用紙購入量 (枚)	23,145,000	22,586,250	558,750	22,431,250	21,758,313	1,386,678	106.4%	
本庁舎廃棄物排出量 (t)	77	80	△ 3	198	119	△ 42	64.7%	

※15年度の電気、都市ガス、水道水の各使用量及び温室効果ガス排出量について修正。

※使用量・排出量等の数値は今後の見直しにより修正することがある。

※端数切捨ての関係で合計が合わない場合がある。

(参考) 経費

	16年度 (a)	15年度 (b)	対前年度差 (a)-(b)	11年度 (c)	対11年度差 (a)-(c)
光熱水費・自動車燃料執行額 (千円)	2,774,016	2,827,447	△ 53,431	3,108,512	△ 334,527
コピー用紙購入額 (千円)	11,872	11,689	138	11,212	660
廃棄物処理費 (千円)	2,401	1,843	558	5,275	△ 2,874

※15、16年度は各部門報告による集計数値

※廃棄物処理費用が増加した理由は処理単価の増加による。

※電気の契約形態の見直し、最大需要電力の削減、電気・都市ガス料金の値下げなどの理由により経費は削減された。

(2) 全体の点検・評価

①平成15年度との全体比較

平成15年度の冷夏暖冬から平成16年度は猛暑となったために、「電気」、「都市ガス」、「水道」の各使用量は増加になった。また、「コピー用紙購入量」も増加となった。

しかし、「自動車燃料使用量」、「廃棄物排出量」は減少した。

「温室効果ガス排出量」は、算定に必要な「自動車燃料使用量」は減少したが、「電気」、「都市ガス」の使用量が増加したために、結果として増加した。

②11年度既存施設での比較と目標との比較

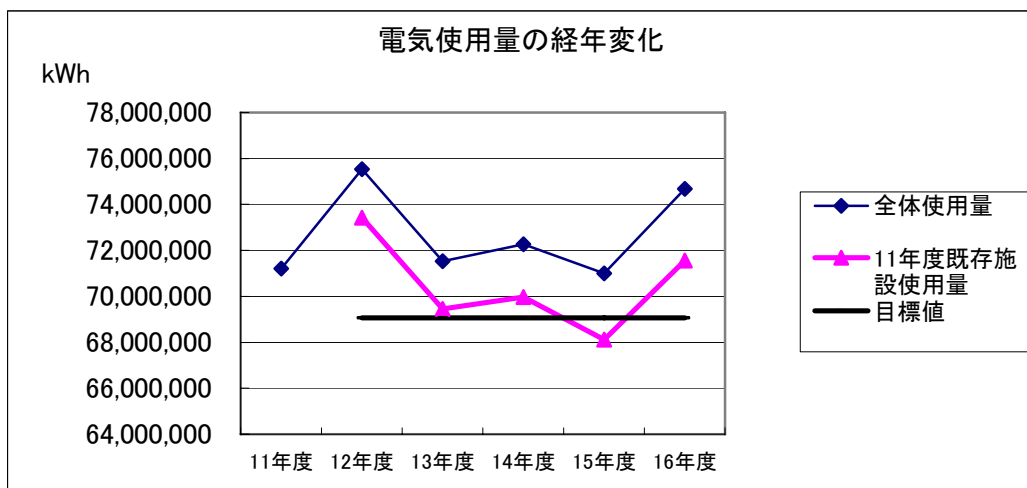
i 電気使用量について

職員一人ひとり、各実行最小単位、各実行部門でそれぞれ削減に向けて努力を行ってきた。

しかし、区民サービス向上のための区民館やコミュニティ会館、図書館など会館日数の増加や時間の延長など、また、事務効率向上のためのOA機器の増加などの増加要因があり、蛍光灯の削減などの減少分を上回った。また、天候要因に左右された面も否めない。

11年度と比較すると既存施設のみでは、約350,000kWhの増加で増減率はプラス0.5%であったが、目標値と比較すると、約2,500,000kWhの増加で増減率はプラス3.6%となった。

なお、11年度以降の新規施設を加える場合、目標値との比較では約5,600,000kWhの増加で増減率はプラス8.1%となった。

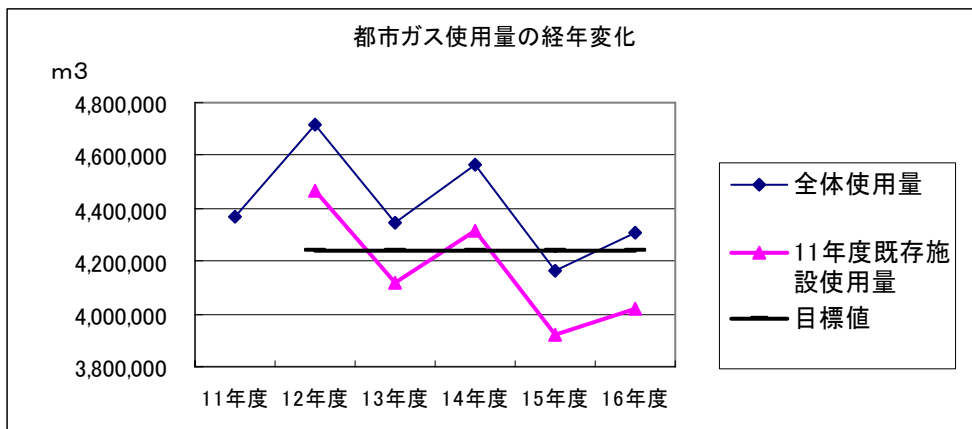


ii 都市ガス使用量について

冷暖房、プール等の温水製造に使用される割合が多く、比較的天候要因に左右されやすいが、冷温水発生機やボイラーの適切な稼働に努めたことにより増減はあるものの減少傾向である。増加要因としては燃料のプロパンガスから都市ガスへの転換が進んだことが上げられる。

11年度と比較すると既存施設のみでは、約346,000 $\text{m}^3$ の削減で増減率はマイナス7.9%、目標値と比較しても、約215,000 $\text{m}^3$ の削減で増減率はマイナス5.1%の削減となった。

なお、11年度以降の新規施設を加える場合、目標値との比較では約69,000 $\text{m}^3$ の増加で増減率はプラス1.6%となった。

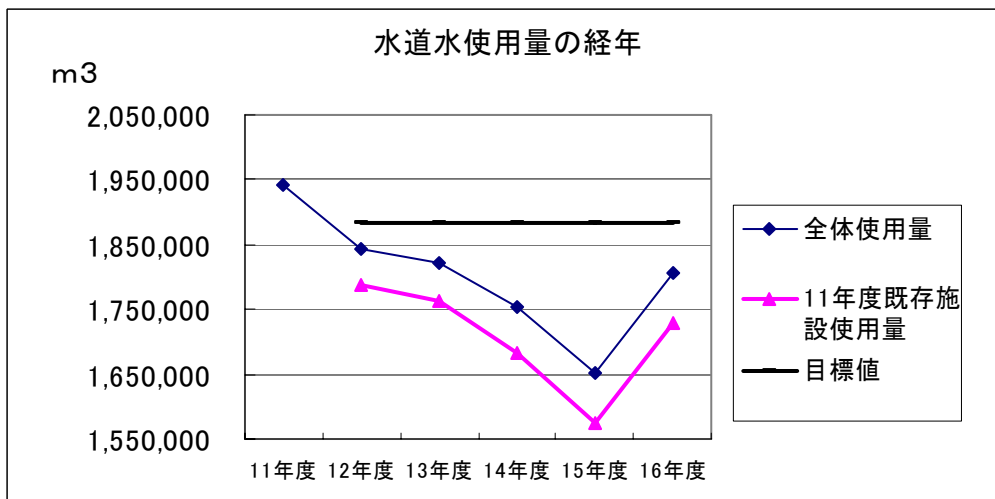


iii 水道水使用量について

水道水使用量は、節水こまの導入、毎月の使用量の点検を行うことでの漏水確認などにより、削減が進んだが、平成16年度は猛暑の影響で使用量が増加した。

11年度と比較すると既存施設のみでは、約211,000 $\text{m}^3$ の削減で増減率はマイナス10.9%、目標値と比較しても、約153,000 $\text{m}^3$ の削減で増減率はマイナス9.2%となった。

なお、11年度以降の新規施設を加える場合、目標値との比較では約76,000 $\text{m}^3$ の削減で増減率はマイナス4.1%となった。

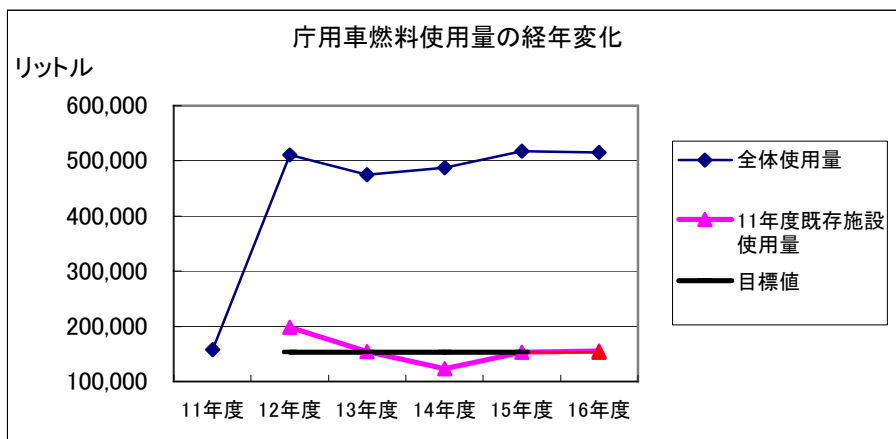


iv 庁用車燃料使用量について

清掃事務所を除き、庁用車は平成11年度末から7台増加し、合計162台となったが、効率的な運用、公共交通機関の利用、経済運転の励行などに努めた。

清掃事務所を除き、平成11年度と比較すると約2,400リットルの削減で増減率はマイナス1.6%となったが、目標値と比較すると約2,200リットルの増加で増減率はプラス1.5%となった。

なお、買い替え時には低公害車の導入や燃料の軽油からガソリンやLPGへの転換を進めた。

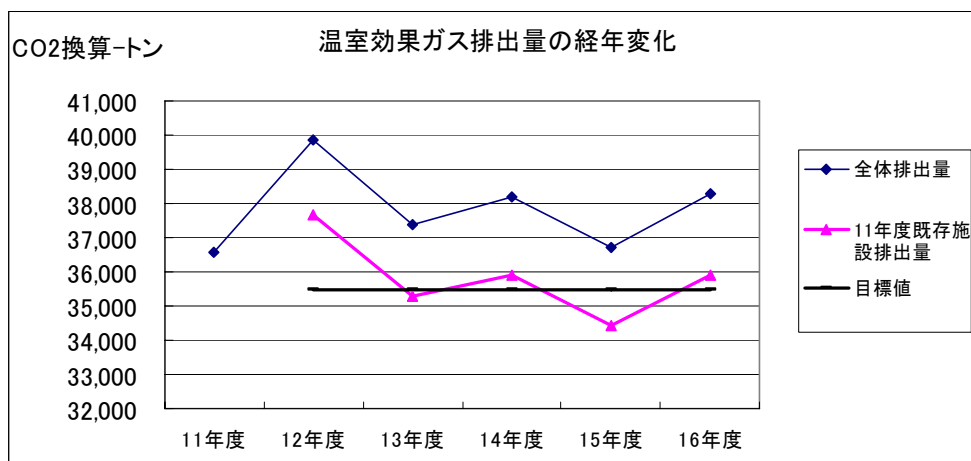


v 温室効果ガス排出量について

温室効果ガスの発生割合は二酸化炭素換算で、電気使用で約75%、都市ガス使用で約22%、自動車燃料使用で約3%、合計でほぼ100%である。他に自動車走行に伴うメタンや一酸化二窒素、カーエアコン使用に伴うフロン漏出がある。

11年度と比較すると既存施設のみで比較すると、目標値設定項目では、「都市ガス使用量」、「自動車燃料使用量」の減少、目標値設定項目以外ではプロパンガス燃料の都市ガスへの転換などが要因で、約660トンの削減で増減率はマイナス1.8%となったが、目標値と比較すると、437トンの増加で増減率はプラス1.2%となった。

なお、11年度以降の新規施設を加えると目標値との比較では約2,815トンの増加で増減率はプラス7.9%となった。

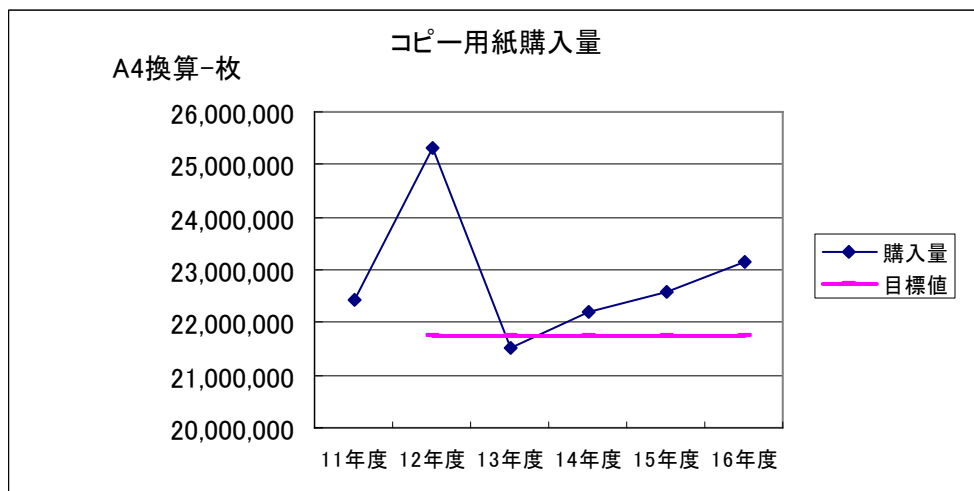


③コピー用紙と廃棄物排出量について

i コピー用紙購入量について

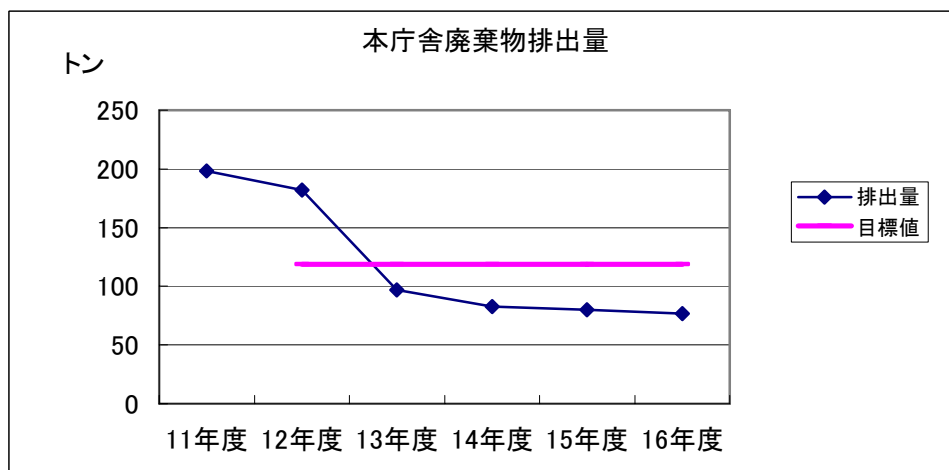
コピー用紙の購入量は増加傾向にある。主な要因としてはOA機器が増加し、手軽に印刷やコピーができるようになったことが考えられる。両面や裏面利用や資料の簡素化などを進めてきたが、コピー用紙購入量は増加傾向である。

数値的には平成13年度は大きく減少したがそれ以降は増加傾向である。11年度と比較して713,750枚の増加で増減率はプラス3.0%、目標値と比較した場合には1,386,678枚の増加で増減率はプラス6.4%となった。



ii 廃棄物排出量について

本庁舎から発生する廃棄物排出量は廃棄物を15分類に分別し、リサイクルを推進したことにより目標の40%削減を大きく上回り、約121トンの削減で増減率はマイナス61%となった。





## 4 環境に配慮した取り組み

### (1) 自然エネルギー・雨水の利用

#### ① 太陽光発電装置の設置

平成14年度に「東葛西小学校」、平成15年度に「北小岩コミュニティ会館」で太陽光発電装置（各定格出力10kW）を設置した。

これら2施設で平成16年度は21,674kWh、設置してからの合計53,266kWhの発電を行った。

また、太陽光利用の街路灯は平成17年3月末現在で143基設置されている（平成12年度以降新設なし）

#### ② 太陽熱利用システムの設置

太陽熱利用をしている施設は、「プールガーデン」、「ホテルシーサイド江戸川」、「小岩アーバンプラザ」、「平井保育園」の4箇所で、主に給湯用・プール用の温水製造に利用されている。（平成12年度以降新設なし）

#### ③ 雨水利用施設の設置

新たに「中央図書館」、「えがおの家」、「東葛西小学校」、「篠崎第三小学校」、「北小岩コミュニティ会館」に設置し、合計で11箇所となった。

「中央図書館」、「東葛西小学校」は中水としてトイレなどに「えがおの家」、「篠崎第三小学校」、「北小岩コミュニティ会館」は散水用に利用されている。

平成16年度は、11施設で25,275m<sup>3</sup>の雨水を利用した。

### (2) 照度の見直しを実施

16年3月～6月にかけて行った全庁施設における照度の見直しにより、電気使用量は年間約323,000kWh、二酸化炭素は121.7トン削減した。

### (3) 庁用車の低公害車導入

平成13年6月に天然ガス車を1台、平成15年12月にガソリン・電気ハイブリット車を3台導入した。

また、買い替え時やリース時は、積極的に低公害車を導入し低公害車は131台となった。

### (4) 環境配慮型容器利用の推進

イベント時における模擬店での容器などについて「環境に配慮した生分解性の容器」や「回収できる弁当容器」の利用に取り組んだ。

### (5) 建物の省エネルギー診断を実施

平成16年度に本庁舎、グリーンパレス、葛西区民館の3施設で省エネルギー診断を実施した。

その結果、3施設合計で電気は約500,000kWh、都市ガスは約15,000m<sup>3</sup>の削減が可能であることが分かった。

## 5 第二次環境行動計画

### 1. 数値的目標値の変更

第二次環境行動計画の数値目標は平成12年度から平成15年度までの確定値と平成16年度の推定値を用いて計算を行った。

そのため、平成16年度のデータが確定したときに再計算を行うこととしていた。今回改めて、平均値を算出し、目標値を設定した。

新たな目標値は下記表のとおりである。

	平成12～16年度 平均値	平成19年度 目標値
温室効果ガス排出量 トン（二酸化炭素換算）	38,082	<u>38,000</u>
電気使用量 kWh	73,000,017	73,000,000
都市ガス使用量 m <sup>3</sup>	4,419,558	<u>4,400,000</u>
庁用車燃料使用量（ガソリン、軽油、LPG）リットル ※2	463,850	<u>433,000</u>
上水道水使用量 m <sup>3</sup>	1,774,834	1,770,000
コピー用紙購入量（本庁舎:A4換算）枚 ※3	22,950,250	<u>23,000,000</u>
廃棄物排出量（本庁舎）トン ※4	104	77

※1 下線数値が新たな目標値です。

※2 発熱量からガソリンに換算した数値です。

※3 本庁舎以外は数値目標を設定しませんが、各実行最小単位でコピー用紙の購入量等の把握を行い、使用量の抑制を推進します。

※4 本庁舎以外は数値目標を設定しませんが、各実行最小単位で数量の把握を行い、廃棄物の減量とリサイクルを推進します。

※5 使用量等の捕捉は常時行います。

### 2. 今後の取り組み

第二次環境行動計画を計画期間は平成17年度から平成19年度末までとして、平成17年3月に策定した。

計画期間内でも新しい施設の建設が予定されており、電気・都市ガスなどのエネルギー使用量の増加が予測される。新たな目標を達成するためにも、既存施設のエネルギー使用量の削減を進めることが必要である。平成17年度には、エネルギー使用量の多い10施設について省エネルギー診断を実施し、その結果を基に、今後、具体的な省エネルギー対策について実施していく。

また、職員一人ひとりの行動が地球温暖化の防止や環境負荷の低減へと繋がっていくことができるように、推進リーダーを対象としていた研修会を職員全体に広げ、よりきめ細かく行っていく。

さらに、全庁LANを活用し地球温暖化に関する情報発信の充実を図っていくとともに、電気使用量の削減、用紙類の裏面利用の促進、自動車の適正利用等について呼びかけを行う。

